

ねりま小中一貫教育レポート

〇●〇 第 20 号 〇●〇

平成 25 年 12 月

発行：教育企画課・教育指導課

「ねりま小中一貫教育レポート」は、小中一貫教育の取組を全小・中学校で共有するため、随時発行しています。第 20 号では、小中一貫教育推進会議の設置および河口教育長からのメッセージについてご報告します。

◆小中一貫教育推進会議の設置

練馬区教育委員会では、平成 25 年度から 3 年間の予定で、文部科学省の「小中一貫教育校による多様な教育システム調査研究」の委託を受けることになりました。委託研究の開始に伴い、「練馬区小中一貫教育推進会議」を設置し、平成 25 年 11 月 19 日に第 1 回推進会議を開催しました。

会議の冒頭、河口教育長より以下のようなお話がありました。

☆河口教育長からのメッセージ☆

練馬の義務教育 9 年間は、小学校と中学校が別々ということではなく、子供たちが練馬の中で育つ 9 年間です。練馬の小中一貫教育は、小学校の先生も中学校の先生も、その 9 年間でしっかり見通して教育を行っていただきたいという思いで進めていきました。子供たちが 9 年間、しっかり地域で支えられて成長することで、より教育の効果が現れ、さまざまな教育課題を解決する糸口にもなると考えています。

小中一貫教育には様々な課題もあり、先生方の負担感が大きい、子供たちにとってどういう効果があるのかわかりにくい、という声もあります。

今まで築いてきた練馬の小中一貫教育をこれから発展させていくために何が必要なのか、練馬の子供たちのために、皆さんのお知恵をお借りしたいと思います。

〇小中一貫教育推進会議で検討すること

小中一貫教育推進会議では、小・中学校の通学区域の重なりや学校間の距離、学校規模などさまざまな状況における多様な小中一貫教育の進め方について検討します。

小中一貫教育推進会議には、2 つの部会を設けています。「小中連携推進教員育成研修部会」では、小中一貫教育の中核を担う連携クリエイターの育成方法と研修プログラムを検討します。「小中一貫教育校検証部会」では、小中一貫教育校大泉桜学園の教育活動および小中一貫教育について検証し、評価手法の開発に取り組みます。

〇推進会議および部会の構成員

推進会議および部会では、学識経験者の大学教授をはじめ、小中一貫教育校や小・中

学校の校長・副校長・連携クリエイターの方々に委員をお願いしています。推進会議には、保護者の方にも参加していただいています。

<p>【小中一貫教育推進会議】</p> <p>委員長 埼玉学園大学/葉養教授 副委員長 帝京大学/岡田教授 委員 小学校PTA連合会/横澤会長 中学校PTA連合会/青柳会長 大泉桜学園/木下川校長 豊玉東小/吉羽校長 開進第四中/松丸校長 旭丘小/佐野副校長 三原台中/大瀧副校長 教育振興部/郡部長 協力委員 旭丘小/飯塚教諭 小竹小/福島教諭 豊玉第二小/濱屋教諭 豊玉東小/山中教諭 旭丘中/矢澤教諭 豊玉第二中/北村教諭</p>	<p>【小中連携推進教員育成研修部会】</p> <p>部会長 十文字学園女子大学 /綿井教授 委員 下石神井小/石神校長 上石神井中/田代校長 南が丘小/太田副校長 八坂中/齋藤副校長 教育指導課/鈴木統括指導主事 教育指導課/荒木指導主事 協力委員 中村西小/山本教諭 旭町小/長沼教諭 大泉小/大木教諭 豊玉中/柳井教諭 開進第二中/深瀬教諭 練馬中/岸田教諭</p> <p>※協力委員とは、必要に応じて出席をお願いする委員です。</p>	<p>【小中一貫教育校検証部会】</p> <p>部会長 大妻女子大学/酒井教授 委員 大泉桜学園/木下川校長 大泉学園緑小/田頭校長 大泉第二小/池田校長 大泉西中/大石校長 教育指導課/堀田課長 教育企画課/羽生課長 協力委員 東京大学社会科学研究所 /伊藤特任研究員 大泉桜学園教職員</p> <p>※26年度からは、小学校PTA連合会、中学校PTA連合会、大泉桜学園の保護者・学校評議員・学校応援団、地元町会の方にも参加をお願いする予定です。</p>
--	---	--

○第1回推進会議で出されたご意見

- ・子供たちの9年間の育ちを検証したいが、必ずしも連携先の中学へ進学しないため検証しにくいのが悩みである。
- ・課題改善カリキュラムを作成するために、小学校の教科書を見て学んだことがたくさんあった。9年間をつながりを確認して、どう授業に活かすかが重要だと思う。
- ・C4thで小中の教員同士が密に連絡できるようになった。
- ・小中で連携をとるなかで、小・中学校で同じ子供たちを教育しているという意識が高まってきた。
- ・小中一貫教育により仕事は増えているが、負担と思うか責務と思うかである。必要だからやっている。最初は小中教員がお互いに何を考えているかわからなかった。仲良くなるいろいろなものが見えてくる。
- ・小中一貫教育の必然性や使命感が感じられずに仕事が増えると負担感が大きい。やっていることに意味があると思うことで進む。
- ・朝の縄跳びによる体力づくりなど、小・中学校が離れていても共通でできる取組がある。9年間で最低限これを身に付けさせたい「〇〇地域ミニマム」を考えたい。
- ・中学校選択制があるなかでも、この特色があるから〇〇中へ行きたい、というような学校づくりのカラーを小中一貫教育でつくろうと考えている。
- ・何のために小中一貫教育をやるのか、課題があってそれを解決するためにやるのだと思うが、何の課題をどう解決するのか見えてこない。